

第三学年

## 学 年 通 信

53年2月20日 発行  
山形県立山形南高等学校第 三 学 年  
第 3 号

送 別 特 集 号

## 卒業生に贈る言葉

新しい時代の  
旗手として

三年生諸君も卒業式を迎えることになると思うと、今更ながら時の流れの早さに驚いている。「光陰人を待たず」というところか、顧みると、私は諸君の入学式の際「高校生活の意義」と「南高の伝統（知徳体の合一）」について述べ、南高に新たな伝統の創造と社会に有為な逞しい青年に成長してほしい意味のことを期待をこめて話したが、今、卒業式を迎えようとする諸君の胸に去来する憶い出はどのようなものだろうか。入学した当時は、その喜びも束の間教科学習の厳しさと部活動に追われる毎日であつたろう。また二年になってからは生徒会等の諸活動に責任ある仕事を果たし、三年では部活動や生徒行事で立派な成績を上げた今、入試制度最後の年である故の厳しい現実に向面してい

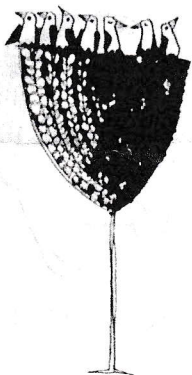
学年主任

田 中 圭 吾

る諸君の中にも「本当に充実した生活であつた」と胸の張れる人、「躍きながらも思い出の多い生活であつた」と顧みる人、「無意識に過ぎてしまつた」という人と、それは千差万別かも知れない。

しかし、伝統に輝く本校での三年の生活体験は諸君の将来の人間形成に大きな自信を与え飛躍へのステップとなることを、私は信じて疑わない。

今後とも諸君には、是非とも所期の目的を達成してほしいこと、また窮地、難局にあつてもたじろがず粘り強く前進し、新しい時代平和な社会の担い手たらんことを期待したい。八年後、地球に接近するハレーすい星を元気でみよう。



## 麦踏みへの訓



武田 允興

私の思い出の歌にこんなのがあ  
る。「踏まずして伸ばしめたり  
し麦あわれ」。説明は不要と思う  
が、こんなことである。お百姓さん  
が両手をうしろに組んで麦畑でせ  
つせと麦踏みをしている光景を見  
たことがないだろうか。今ようや  
く稲の苗ぐらいに伸びた麦を足で  
踏みつけるのだ。そうすると踏ま  
れた麦は、丈夫にりっぱな穂をつ  
けた麦に成長し、踏まれなかった  
苗は逆にひ弱な麦にしか育たない  
という。

人生をこの麦にたとえるなら今  
君はちょうどこんな苗とみてよい  
のではないだろうか。この時期に  
踏まれずして苦境から逃れ、楽を  
求めているのは次の世代を担うり  
っぱな社会人にはなれないぞ、と教  
えている歌ではないだろうか。け  
れども人間は麦とは違う。踏まれ  
ることもあるが自分を踏むことも  
出来る。今のうちに自分を踏むこ  
とを。決して手加減せずに、思い  
つきり。そして、そこからはい上  
がる力を出そう。いつの日かりつ  
ばな穂をつけた人間になってい  
よう。

## 生活の基礎に誠意を



桜田 清高

卒業生諸君は、三年間の南高で  
の修学を終え、各人各様の方向へ  
進むことになる。その各人の今後  
の日常生活の中で、是非実行して  
ほしいと考えていることがある。  
それは一日の生活の中で、三度の  
食事と数回の手洗いと睡眠につい  
ては、心から、誠心誠意、全力で  
事にあたってほしいということだ  
ある。つまり、食事の時には、心  
から全力を尽くして食事をとる。  
全力で食事をするとはどういうこ  
とか？こんなことに全力を尽くす  
なんて……と思うかもしれないが  
その時に自分が食べるものをよく  
味わって、余計なことを考えずに  
ひたすら食べるようにしてほしい。  
手洗い通いも同じである。排泄に  
徹して、全力を傾ける。事後の爽  
快さを味わってほしい。睡眠につ  
いても同じように全力で眠るこ  
と。朝の目覚めがすばらしい。  
こんなことを勧める小生自身は  
というと常に実行している段階で  
はないが、何度かそれぞれについ  
て経験している。このことが常に  
実行できると、日常生活の様々な  
面にも全力であたれると思う。





高内 国吉

## 信ずるという心

ある月刊雑誌に「信ずることと知る」という一文がのっている。その見出しには「現代は科学的合理主義が万能視され、信ずることが忘れられた。しかし信ずることがなくして深く知ることはいえない。」とある。本文の冒頭にユリ・ゲラーの念力の話や、ある夫人が、夫が戦場で倒れた夢を見たがそれが正夢であった例につき、いわゆる科学者という人々がこれを頭から否定し、あるいは嘲笑するのみで不思議を不思議として受取る素直な心が少ないのに驚くと述べられている。科学者の合理的な考え方がすべてではなく末だ知られない広い自然現象があるのだと指摘しておられた。私なども信ずるという心を少々失ないつつあったかもしれない。採りあげる価値なきものとして、初めから信じようとしないう態度でなく、目のおいを少しあけて考えて見る素直な心をいつまでも持ち続けて行きたいものと思っている。人と人との交際には、共感や同情だけでなく、忍耐力も求められることを諸君も心してほしい。



池野 蘭也

## 青春の証

青春には、夢があり、冒険があり、焦燥があり、挫折がある。人生に未熟なために、失敗があり恥がある。それは溢れる野心と欲望の所為であるが、心が純であるから大人のようになぶさまがでない。私はもう一度青春時代にかえりたい。それでもう一辺人生に挑戦してみたい。かつて見たあの途方もない夢を本気で追いかけていた頃の幼い自分が懐かしい。はるか年月を経た今、あの苦しかった日々が、適度にほろにがしく思い起される。

きみのいのちが芽ぶいたとき、天には瑞穂いろの蒼穹があつた。雨は大地をやさしくうるおし、風は梢のあいだを吹きぬけていた。きみはしばらく無明にまどろんでいたが、やがてそのつぶらは光をとらえ、桜貝のような鼓膜は、慈悲のよび声にふるえた。ゆりかごのうえに夕陽がとどききみは平安のとほりに抱かれて幾夜ねむることか。過ぎていった幼ない日々よ。

## 蒼穹によせて



長谷川 浩司

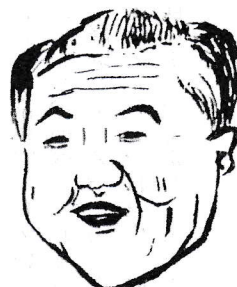
## 人生の山道



庄 司 滋夫

幾多の山並を越え、高校卒の峠にたどり着いた諸君、まずはお目出とう。また明日から新しい第一歩が始まる。峠からは、無数のルートがあり、はるか遠くの山陵に続いている。尾根道を進む者、岩場へ取付く者、沢筋のコースをえらぶ者……思い思いの道を行くことになる。歩をほこぶごとに新しい展望がひらけ、更に奥の山塊が目に見え込んでくる。順調にピッチがあがり、快晴の峻線ではばしの憩いをとる時もあるだろう。しかし雨に打たれ、ガスにまかれ道に迷う時が多いかも知れない。ガレ場から転落し、一時後退を余儀なくされる時もある。だが諸君等の進む行程は、あともどりは許されない。傷つきながらも幽をくいしばって進む以外にない。三年間の南高生活で得た強い精神力と強靱な身体だけが、長い山旅を支える。格好の良きなんかなんにもならぬ。一夜の吹雪で簡単にホトケ様になるのが関の山だ。山には、エスカレーターは無い。粘り強く一足づつ歩く以外なし。覚悟して第一歩を踏み出そう。

## はなむけの歌句八首



高橋 光義

私の特に好んでいる短歌と俳句を抄出して、諸君の前途を祝うこととしたい。あしびきの山川の瀬の鳴るなべに弓月が雲に雲たちわたる。石ばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりにけるかも若の浦に潮満ち来れば鵜を無み岸辺をさして鶴鳴き渡る多摩川に晒す手作りさらさら何ぞこの児のここだ愛しきものいはぬ四方の猷すらだにもあはれなるかなや親の子を思ふ雲の峰幾つ崩れて月の山著き日を海に入れたり最上川茜さす空削き聳る吾妻山日を継ぎ雪は降りにけるかも山形の輝くような春も近い。君たちの人生の最初の春も、開花を待つばかりである。多幸を祈る。





早坂 昇

## 自然の恵みを糧とせよ

ある日の朝日新聞にある大学の学生の食生活の記事が載った。朝食抜きの日二食、夜も即席麵で済ます者が50%を越え、専門の栄養士が不合格点をつけた者は70%近くもあったという。食事には毎日三度のリズムがある。成長期に体づくりをやらないで、何時やる積りなのだろう。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食ひ、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食ひ、春に菜の花、秋に里芋を食う季節感溢れる青果は沢山ある。その時々の特産の大陽光線を貯蔵し雨雪の浸透したものはアンの入らない最中の味がする冬の茄子と比べでない。清涼飲料水で喉を潤すことで日本の、特に東北の四季を忘れないようにしたいものだ。青果に限らず、魚貝類もまた大目自然の四季を着込んでいる。自然の厳しい環境に耐え忍んだもの程、我々に大きな恩恵を与えるものだ。

## 二つの提言

南高を巣立っていく諸君への提言として二つの事を提言したい。一つは二十二年後に大きく生きよということだ。二十一世紀の幕開け、そして諸君は四十歳。世界も日本も大きく変貌しているはずだ。その変貌に諸君はついて行かなければならぬ。否、諸君は自ら手でその変貌を遂行しなければならぬ。歴史をつくって行く義務があるのだ。諸君はいま青春の真っただ中にある。現在を確実に生きると同時に未来に理想を求めて飛躍するところに若者の価値がある。諸君は未来に向けて飛び立つ日に備えて十分に身を屈し、力を蓄積してもらいたい。



泉 真也

## あらたな出発に望む

「もう卒業かク」こんな声を聞いたくなるような気がする。過ぎ去るって、こんなに速いものなのだろうか。「パッチパッチ」の口癖のように声をかけた諸君ももう南高を巣立って行ってしまふ。なにか寂しさを覚える。この三年間よく南高魂という言葉を耳にしたが、実感として味わった諸君は何人いただろうか。これからは厳しい社会環境が君達を待っている。口先だけでなく、実行のある生活をして欲しい。南高魂を発揮できなかった諸君でも、せめて、山南高を卒業して良かったと言えるなにかを思い起して卒業してほしい。粘り強く最後の追い込みを卒業の高峰とともに、新しい道を進む諸君、来春への希望に燃えて新しい道を歩む諸君、これからは自分の手で、自分の足で、しっかりと君の人生を歩んで下さい。卒業しても、三年間の心のパッチを胸につけて、胸を張って歩き続けて欲しい。いつかどこかで、立派に成長した君の姿に出会うことができることを、心から祈り、すばらしい青春の出発があることを希望したい。



須崎 邦彦

## 「大型鈍才」に期待

先日入学願書を出して、数人の先生と一緒に諏訪神社に合格祈願にでかけた。せまい神殿の中、太鼓の響きと神主の朗々たる祝詞が寒さにふるえるはらわたにしみこんだ。ここ数年、受験期が近づくと、有名な神社に合格祈願に訪れる親子たちの数が増えようふえてくるらしい。いわゆる「神だのひである。しかし最初から努力もしないで神にだけ頼ってもどうにもなるまい。二月家庭学習に入ってから果してどれだけ頑張っているか。ねじり鉢巻で机に向っているか。ねばり強く最後の追い込みに粘り出して欲しい。ところでやがて卒業である。英語のcommencementには「卒業式」とbeginningという二つの意味がある。進学者にとっては、これからの大学生活(予備校生活ではない)のスタートだろうし、就職する者は社会人一年生の出発点ということである。graduationよりも含みのある言葉で気持ちがいい。いずれにしても、胸をはって堂々と道を進んで行くことだ。大型鈍才を期待したい。



吉江 正夫

## 成りきる心

NHK特設報告「わが友ポコト族」なるテレビ番組を観た諸君もいることと思う。秋田大館山学部出身の青年一家が、アフリカの奥地で、ポコト族なる原住人部族をしなから、大学での専攻を生かし、ルビーやエメラルド等の宝石を採掘して、生活している様子を報じたものである。生き様にもいろいろあるが、青年一家の生き様こそ、世界に通用するものだと思つた。彼等一家には「成りきる心」があったからである。彼の美人の奥さんも素晴らしい。風が吹けば、原住人の家の屋根にぬった牛糞も飛んでこようという屋外で、美しい顔をしかめせずポコト族達と食事する様など、少しバッチイが、全く感動させられるものがあった。何もアフリカに行つて生活せよ、というつもりはないが諸君には、ぜひ世界に通用する人間になつてもらいたいのだ。何高校、何大学出身なんて世界には問題じゃない。あの青年のように、何をやるにしても「成りきる心」をもってやつてもらいたい。



加藤 正三郎





高橋 勇



佐々木 周栄

### 辞書を「作る」

諸君。辞書というものは単に辞を「引く」だけのものではないよ。それだけ読んでも実に面白い読物なのだ。無論、拾い読みで結構。

「読む」深さに伴い、興味はますます深まってくる。何せ、そこにはわれわれの言語生活のあらゆる相が語られているのだから。

しかし、諸君。それ以上に愉しいことがあるんだな。それは自分で辞書を「作る」ことなのだ。

なに、作るなんてとんでもないだって？ まあ、そうムキにならずに吾輩の作った辞書をば御覧じろ。と言うても、残念ながら余白がない。一語だけ披露する

心棒……世にこれほど辛抱を必要とするものはない。

さて、やがては世の「心棒」となる諸君。「潤滑剤」にはユ一モアに富む「言葉」を以てしてはいかがかな。その為には日頃、「辞書」に親しむことだ。そして精々自分の辞書を「作る」ことだ。但し、「作る」にはそれなりのシンボウが必要な事、勿論だがね。

### 人に皆美しき種子あり

私は、元旦を期して髭を伸ばし始めたが、それからは、いままでもあまり用のなかつた鏡とよく対面するようになった。

鏡をみているうちに笑いが込み上げてくる。みればみるほど、おかしな顔におかしな髭である。自分でもそう思うのだから、他人様が笑うのは当然のことである。

しかし、一つの発見があった。それは、自分を笑えるのは、自分で自分を客観的にとらえた時である、ということである。

はきだめに えんどう豆咲き  
泥池から 蓮の花が育つ  
人皆美しき種子あり  
明日 何が咲くか

安積得也のこの詩は、私の諸君に期待する気持ちでもある。

どんな人間にも、そのひとだけにはかない個性や、かくれた才能がある。ましてや南高を巣立つ諸君においておやである。  
自分を客観的に見つめ、これぞと思う個性や才能を大いに伸ばしてほしい。そして美しい花を咲かせるのだ。私でさえも、髪はだめだが、髭は伸ばせるのだから。

## 志望状況

### 今年度の大学志願状況について

一月二四日現在で志願大学の最終調査を行なったが、その集計が上記の表である。国公立大学は昨年に比べて増加しているが、傾向は類似しており、国立一期は、合格可能性から考えて例年こんなものである。山形大学では、教育学部と農学部が志願者増で、昨今の社会情勢を物語っている。

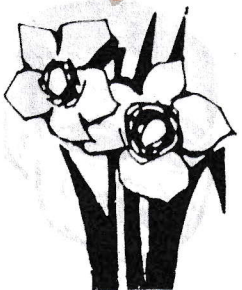
今年には特に山形大学の激戦が予想されており、各回模試の倍率はこれまでの最高となっている。これまで苦杯を喫してきた諸君の学力レベルを検討してみると、ほとんどが、あと一步の追い込みで合格できたであろうと思われるものが多かった。

国立(一期) 大学		
大学	昨年	今年
北海道大	4	5
旭手大	29	33
東北大	23	19
新潟大	33	37
筑波大	10	15
千葉大	22	15
その他	4	6
計	125	130
国立(二期) 大学		
大学	昨年	今年
山形大	179	193
人文教育	29	28
理農医	56	70
その他	16	15
計	65	53
その他	13	23
計	0	3
計	25	35

私立 大学		
大学	昨年	今年
明治大	61	76
法政大	60	87
東北学院大	41	40
中央大	34	27
東京理科大学	30	21
東洋大	30	20
専修大	29	25
青山学院大	22	12
明治学院大	21	5
神奈川大	20	50
日本大	19	39
国学院大	16	12
立命館大	17	9
慶応大	12	5
工学院大	11	13
駒沢大	10	28
その他		
計	664	773

公立 大学		
大学	昨年	今年
高崎大	11	17
都立大	3	5
都立大	4	3
その他	5	9
計	23	34

(S, 52, 1, 24  
現在)



### 卒業生歓送会

盛況裡におわる

一月三十一日、恒例の卒業生歓送会が催された。一年、二年の在校生たちは、兄貴らの門出を祝福し、その多幸を祈って、歌に寸劇に演舞にと、思いこらした出しものに盛りひりげ、体育館は拍手と爆笑で満ちた。

三学年担任教師団の演出は、卒業生全員の大学入試合格と活躍を祈願しての神仏習合的セレモニーで、阿弥陀・釈迦・大日如来や文珠その他の教科菩薩多数の来迎のもと、泉神宮のおごそかな祝詞を賜り、神酒の杯を受けた生徒衆総代の手も、感激にふるえがちであった。もつとも、その中身は冷水であったが！

(大江先生撮影)



### あとがき

最後の学年通信をお届けします。卒業生諸君に贈る特集です。諸先生のはなむけの言葉をかみしめて下さい。似顔絵は早坂先生の作品。意外なる画才の発見！